

## 執筆者紹介

(執筆順、①生年、②所属(専門分野)③ひとと言)

平井一臣(ひらい かずおみ) \*編者 はじめに・序章

- ①1958年
- ②鹿児島大学法文学部(政治史、地域政治)
- ③白黒をはっきりさせ、また大胆な一挙解決型の提案になびくのが今の日本政治の特徴のひとつかもしれません。じっくりと考え抜く力が今こそ求められているように思います。

中川伸二(なかがわ しんじ) I

- ①1961年
- ②福島大学行政政策学類(政治学)
- ③最近、地方議会改革をテーマにした仕事が一挙に増えました。自分たちが暮らす生活の中から政治を考えていくことを大事にしたいと思っています。

上田道明(うえだ みちあき) II

- ①1963年
- ②佛教大学社会学部(政治学、行政学、地方自治論)
- ③リーダーや制度を変えることの重要性は否定しませんが、政治を確かに改革していくものは、むしろ地域での小さな取り組みの積み重ねではないかと考えています。

金丸裕志(かなまる ゆうじ) III

- ①1971年
- ②和洋女子大学人間社会学系(政党論、アジア比較政治)
- ③先日、出張先の海外で“NATO”という言葉を見ました。“No Action, Talk Only”の略。学者はいつもそうだとされるそうです。リアルな政治につながる政治学は重要だと思いました。

堀江孝司(ほりえ たかし) IV

- ①1968年生
- ②首都大学東京都市教養学部(政治学、福祉国家論、ジェンダーと政治)
- ③一時、流行の感すらあった貧困や格差への関心が減少してきたように思います。「問題」が解決したわけではないのに、問題の所在を示し続けることも、政治家やメディアの重要な役割でしょう。

畑山敏夫(はたやま としお) \*編者 V・おわりに

- ①1953年
- ②佐賀大学経済学部(フランス現代政治)
- ③多くの人々が不安に苛まれ、希望を失っています。このような時こそ、政治の出番のはずです。私たち人間の希望を蘇らせるだけでなく、絶滅の危機に曝されている多くの生き物たちの運命にも配慮する、そんな政治に近づけるように残りの人生を費やしたいと思っています。

丸山 仁(まるやま ひとし) VI

- ①1963年
- ②岩手大学人文社会科学部(グリーン・ポリティクスとスロー・ポリティクス)
- ③イーハトーブの地で、地酒と地ビールに囲まれながら、「エコロジー的である」こと、「民主的である」こと、「社会的である」こと、総じて「グリーン(スロー)である」ことにゆっくりと思いを巡らせています。